

血液凝固時間の測定が可能な粘度測定システム

名誉教授 大野宏毅、法医学 佐藤寛晃、血液内科 塚田順一

利用分野

血液の凝固異常を調べるにあたって、ポイントオブケア検査として利用できる。異常値を示す疾患として、血栓症、血友病A,B、無フィブリノゲン血症、フィブリノゲン異常症、新生児出血症、ネフローゼ症候群等が知られている。

シーズ

発明者らの先行発明 (PCT/JP2021/012837) である、毛細管内の試験液に圧力を加えて流動制御する技術をもとに、試験液を流動開始位置まで押し戻すことで、同一毛細管内で複数回の粘度測定を実施可能な技術である。試験液の粘度の時間的な変化を追従することを可能にした。



ニーズ

血液凝固検査は静脈血を採取し、その採血時から血液の流動性が消失する（血が固まる）までの時間を測定する検査である。重症肝障害、ビタミンK 欠乏などでは時間が延長する。現在は、活性化部分トロンボプラスチン時間を測定することで代替される場合が多いが、ベッドサイドで実施可能なポイントオブケア検査のニーズがある。

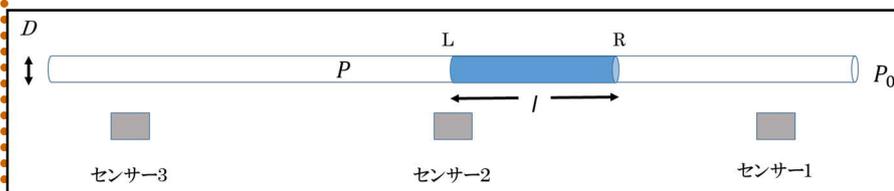
連携分野

実験室レベルでの試作機のコンパクト化とPOCの実施

知財保護

PCT/JP2023/011748 (US, EU, JP 移行予定)

血液凝固は、止血において重要な役割を果たす



本学マスコットキャラクター
ラマディー



産業医科大学 産学連携・知的財産本部
〒807-8555
福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1番1号

問い合わせ先: 研究支援課
TEL : 093 (280) 0532
FAX: 093 (691) 7518
E-mail : chizai@mbx.pub.uoeh-u.ac.jp